

福島座長提出修正案

39 ページ、17 行目

(2) _____の再現性を確認するために実施された試験 E, F-1 および F-2 の舌二段階発がん試験の結果は次の如くである。

舌の腫瘍発生に関しては、野生型ラットでは試験 F-2 における雄において、がん発生の有意な増加がみられたものの、各群の有効匹数がより多い試験 E および F-1 では腫瘍発生の増加は認められなかった。雌においては試験 F-1 および F-2 とも腫瘍発生の増加はみられなかった。Tg ラットでは試験 F-1, F-2 とも腫瘍発生の増加は認められなかった。

口腔（舌＋硬口蓋＋下顎）の腫瘍発生に関しては、野生型ラットでは、雄を用いた試験 E, さらに F-1 および F-2 の雌雄とも腫瘍発生の増加はみられなかった。Tg ラットでは、雄において腫瘍発生の増加は認められなかった。ただし、試験 F-1 において過形成＋異形成＋腫瘍の発生増加と硬口蓋＋下顎の腫瘍発生増加がみられたが、それぞれ用量相関性のない変化であった。また、試験 F-2 において、硬口蓋、硬口蓋＋下顎の腫瘍発生の減少が認められた。雌においては試験 F-1, F-2 とも腫瘍発生の増加はみられなかった。

これらの結果から、DAG 油の投与による舌を含む口腔内の発がんプロモーション作用は認められないと考えた。

25 行目につづく